

採用年度	平成 29 年度
お名前	森田 真布
派遣期間	平成 29 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日
領域/分科/細目	化学/生体分子科学/生物分子化学
派遣国	米国
受入機関名	University of Utah
受入機関部局名	Department of Medicinal Chemistry
研究概要	自然界の生き物は、様々な生物活性物質をもつことが知られています。その中でも動物がもつ生物活性物質は、動物ではなく共生している微生物により生産され、宿主はこれらを化学防御に利用しているのではないかと考えられています。本研究課題では特に、海洋動物であるホヤがもつアルカロイドが、どのような経路で・だれにより生合成されるのかを明らかにしようとしています。
派遣前の準備についてのアドバイス	本制度で米国に留学される方のほとんどが J-1 ビザを申請されると思います。J ビザは、書類を揃えて大使館で面接さえすればスムーズに取得できます。ただ、必要書類である DS-2019 を先方の研究機関から発行してもらわなければならないので、早めに留学先の先生にお願いすることをおすすめします。派遣先地域についての情報は、できれば事前に派遣先研究室の学生さんやスタッフの方に聞いてみるのが良いと思います。私の場合は、渡航前に治安の良い地域や空室のありそうなアパートを教えてもらい、渡米後数日間はホテルに宿泊しながら、銀行口座の開設やアパートの契約をしました。現地に行ってからアパートを契約する際は、頭金としてドルの現金か小切手が必要になることも多いので、渡航後すぐに必要なお金をどのような形で持って行くかについても考えておきましょう。私は日本から銀行小切手を持って行きました。
派遣中に問題になりうることについてのアドバイス	派遣開始直後は特に、周囲の方の助けが必要な場面が多いと思います。自分が何をしたいのか、その為にどのような助けが必要なのか、明確に伝えることが大事です。少なくとも私の周りでは、困っている様子を誰かが察して動くという文化はなく、何か疑問や意見があれば自分から伝えることでしか状況は変わらないと感じています。英語が聞き取れなければ聞き返す、研究で分からないことがあれば受入研究者や周りの人に聞く、研究発表で共有していない研究背景があればその場で質問する、といった積み重ねでトラブルを未然に防ぐことができるのではないのでしょうか。また、環境が変わることで思いがけず体調を崩すこともあるので、加入した保険が適用できる病院の下調べやインフルエンザの予防接種なども受けておくとうれしいと思います。
派遣先での生活の様子	私の派遣先地域は米国の中ではかなり治安が良く、公共交通も充実しているので、日本にいたときとあまり変わらない感覚で生活をしています。それでも去年は、深夜に大学内の駐車場で留学生が射殺されるといった痛ましい事件が起きており、安全には気を配っています。ユタ州は米国の東西海岸に比べるとアパートの家賃相場は低く(1ベッドルームで月10万円程度)、私はルームシェアはせずに夫婦で暮らしています。日本と違う点としては、私の受入研究者も含め、研究所に日常的にお子さんやパートナーを連れてくる方が多く、家族ぐるみの付き合いがあることでしょうか。また、大学の周りには国立公園やスキーリゾートが日帰りで行ける距離にあるので、休日はハイキングやアウトドアスポーツを楽しむ方が非常に多いです。
海外特別研究員に採用されて良かったこと	私の場合は、日本にいたときとは異なる分野に挑戦したいと思い、本制度に応募しました。海外特別研究員に採用していただいたおかげで、新規性(そしてリスク)の高い研究課題に取り組むことができ、とても感謝しております。派遣先の研究室では、年に1回ほど研究テーマの割り振りを改めて話し合う機会がありますが、その際もフェロウシップを持っていることで自身の好きなテーマを選び、自由に研究を進めることができっております。